

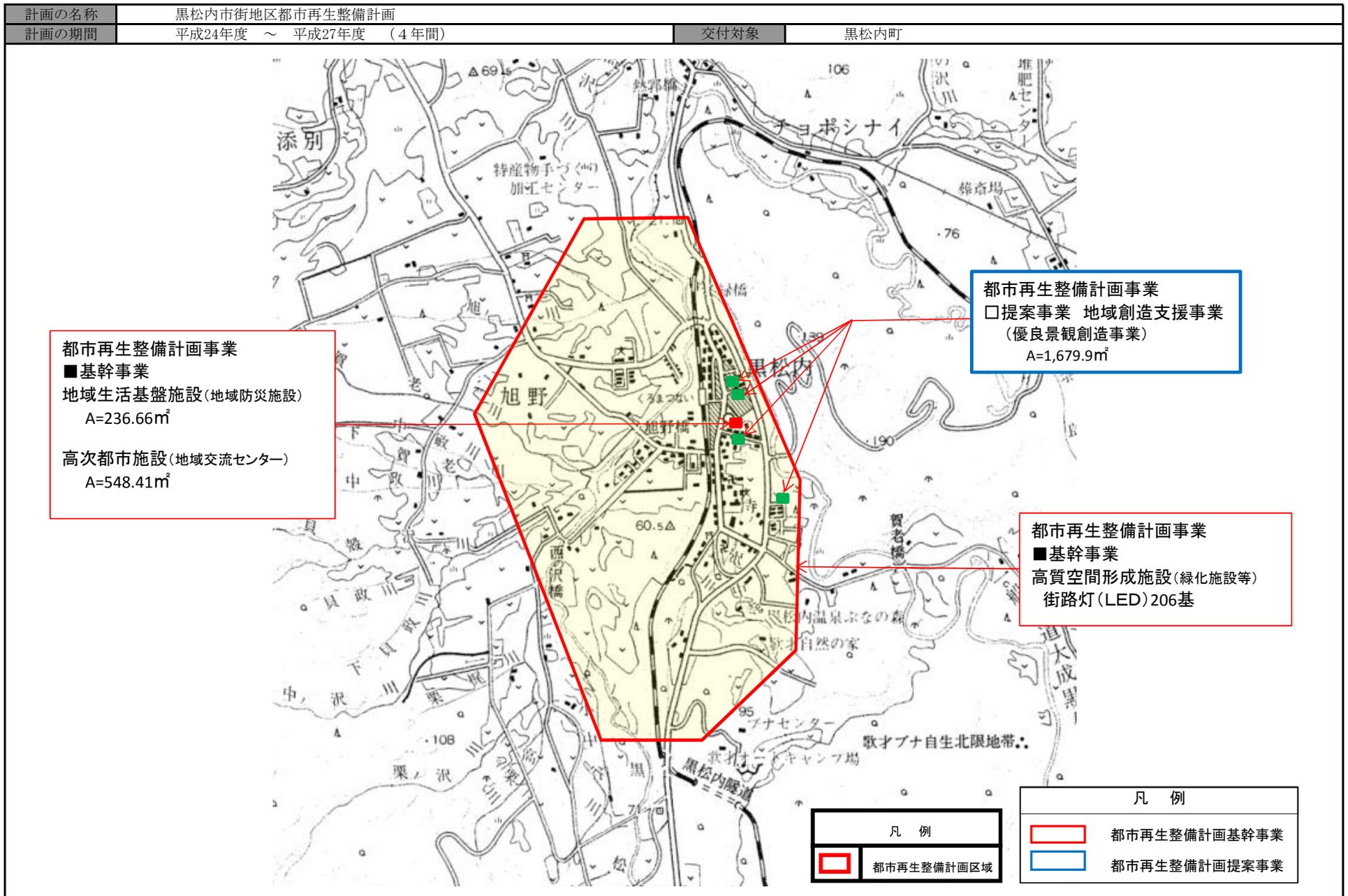
しゃかいしほんそうごうせいびけいかく
社会資本総合整備計画(第4回変更)

くろまつないしがいちくとしさいせいせいびけいかく
黒松内市街地区都市再生整備計画

平成28年3月23日

北海道 黒松内町

(参考図面) 社会資本総合整備計画 (市街地整備)



都市再生整備計画(第4回変更)

くろまつないしが い
黒松内市街地区

ほっかいどう くろまつないちょう
北海道 黒松内町

平成28年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	くろまつないちよう 黒松内町	地区名	くろまつないしがい 黒松内市街地区	面積	644 ha
計画期間	平成	24	年度	～	平成	27	年度
交付期間	平成	24	年度	～	平成	27	年度

目標

大目標:安心して快適に暮らせるにぎわいのあるまちづくり

目標1 災害に強い安全・安心なまちづくりを推進する。

目標2 町民・各団体相互の結び付きを強めるコミュニティ活動を支援する。

目標3 自然にやさしい環境づくり、優れた景観づくりを推進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・国の天然記念物である歌オプナ林を町のシンボルとして位置付け、牧歌的風景や地域の生活文化等を生かした都市と農村の交流をまちづくりの基本理念とするヨーロッパ型の農村づくり「ブナ北限の里づくり構想」に平成元年度事業着手し、まちづくりの目標を、それまで一般的に指標とされていた定住人口の増加から交流人口の増加を目指してきた。

・その後、自然体験学習宿泊施設や温泉、特産物手づくり加工センターなどの交流施設を整備。平成5年度の観光客入込みは約46,000人であったが、以後年々増加し、近年は概ね15万人で推移している。

・ヨーロッパでは、早くから景観や環境に配慮した取組が行われていたが、本町も北限のブナ林や美しい農村景観を次々に引き継ぐため、平成8年にはふるさと景観条例を制定して奨励制度を設けて個人住宅の色彩配慮、廃屋・廃自動車撤去などを手掛けたことから、ヨーロッパの農村のような色彩の統一感が生まれ、来訪者から高く評価されるようになった。

・平成20年3月には景観行政団体となり、翌年4月景観計画を策定して行為の届出制を導入し、交流施設を景観重要建造物に指定するなど、一層の美しい農村景観づくりを推進している。

・自然環境に関しては、平成9年に「環境基本計画」を策定し、平成11年には「環境基本条例」を制定して北限のブナ林や高層湿原として貴重な歌オプナ湿原、アユやヤマメの生息する朱太川などの地域固有の環境保全に取り組んできた。

・平成21年度から「生物多様性」の視点を公共工事、農業経営、交流、里山づくりにも取入れ、持続的に利用可能な地域づくりを目指している。

・また、これまで取り組んできた各種施策によってまちの魅力が高まり、交流だけでなく移住する方々が増え始め、移住者の経済活動が町内外に発信され、まちの魅力は一層高まるようになってきた。

課題

- ・災害時には迅速な対応ができるように、黒松内市街地に防災行政無線の放送や外部との情報通信、備蓄倉庫などの機能を兼ね備えた防災拠点となる施設を整備する必要がある。
- ・市街地には町民の絆を深める文化や福祉などのコミュニティ活動を実践できる施設が不足しており、特に東日本大震災を契機に地域の主体による防災体制の確立・危機管理意識の高揚に結び付くコミュニティ活動の強化が求められている。
- ・景観行政団体として、町が率先して景観づくりを行うことで町民の意識を高揚し、優れた景観づくりに向けて誘導する必要がある。
- ・環境自治体を目指す本町の取組として、町民の自然にやさしい環境づくりの意識高揚につなげるモデルとなる省エネルギー設備を整備する必要がある。

将来ビジョン(中長期)

【第3次黒松内町総合計画】(平成22年～平成31年)

- ・第4章第8節 防災～橋や建物の耐震化が進み、加えて情報伝達機能が確立、自主防災組織・事業者・関係機関等が互いに連携し、万一災害が起こった場合でも迅速な対応により、被害を最小限に食い止めています。
- ・第2章第2節 地域～町民同士のつながりが深まり、コミュニケーションが図られ、学んだことを社会で発揮できるだれもが主役の場があります。
- ・第4章第1節 環境管理～省エネルギー、アイドリングストップ、3R運動など環境にやさしいライフスタイル・事業活動の実践と定着に努めます。
- ・第4章第2節 景観～景観ルールの周知徹底及び景観づくりの誘導を行うとともに、地域や住民の主体的な修景活動を推奨しながら、ヨーロッパの田舎のような統一感のある心やすらぐ美しい景観づくりを推進します。

目標を定量化する指標

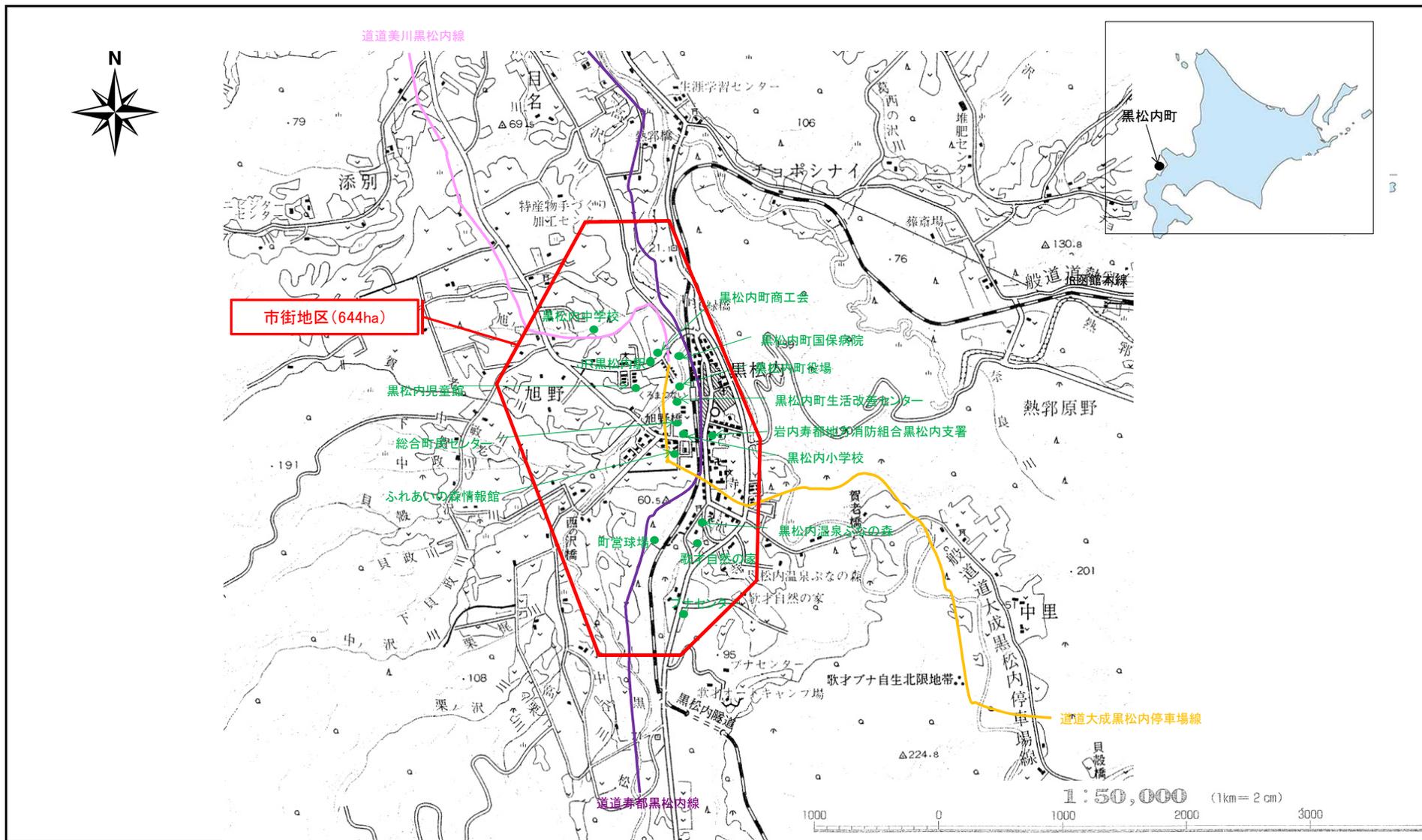
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
防災訓練参加人数	人	防災訓練に参加する人数の増加	防災拠点の整備で、住民の防災意識が高まり、防災訓練への参加人数が増加する。	710	平成22年度	800	平成27年度
生涯学習の町民満足度	%	町民満足度の向上	コミュニティ活動を支援することで、町民・各団体相互の結び付きが強まり、生涯学習に対する町民の満足度が向上する。	49.1	平成22年度	60.0	平成27年度
黒松内の景観への町民満足度	%	町民満足度の向上	町が率先して景観づくりを行うことで、町民の意識を高揚し、優良景観に対する町民の満足度が向上する。	48.0	平成22年度	60.0	平成27年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■整備方針1:防災拠点となるセンター施設の整備による災害に強い安心・安全なまちづくり</p> <p>・災害時には迅速な対応ができるように、防災行政無線の放送や外部との情報通信、備蓄倉庫などの機能を兼ね備えた防災拠点となる施設を整備する。</p>	<p>地域生活基盤施設(基幹事業:黒松内町コミュニティ防災センター)</p>
<p>■整備方針2:コミュニティ活動を実践できる施設の整備による町民・各団体相互の結び付きの強化</p> <p>・市街地区町内会などの団体の集会、研修など、コミュニティ活動を支える中核施設を整備する。 ・なお、その施設は災害時には防災避難施設等へ避難する前段の一時避難施設として活用するため、地域防災施設との合築施設として整備する。</p>	<p>高次都市施設(基幹事業:黒松内町コミュニティ防災センター)</p>
<p>■整備方針3:自然にやさしい環境づくり、優れた景観づくりの推進</p> <p>・黒松内市街地区内の街灯に、二酸化炭素排出量の削減効果のある省エネルギー化設備【LED灯】を整備する。 ・町が率先して景観づくりを行うことで町民の景観に対する意識を高揚するため、公共施設の外観の色彩を景観に配慮した色にする。</p>	<p>高質空間形成施設(基幹事業:黒松内市街地区) 地域創造支援事業(提案事業:優良景観創造事業) 景観づくり推進事業(関連事業:黒松内町内)</p>
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

<p>黒松内市街地区(北海道黒松内町)</p>	<p>面積 644 ha</p>	<p>区域 黒松内町字黒松内・字旭野・字西沢の一部</p>
-------------------------	------------------	-------------------------------

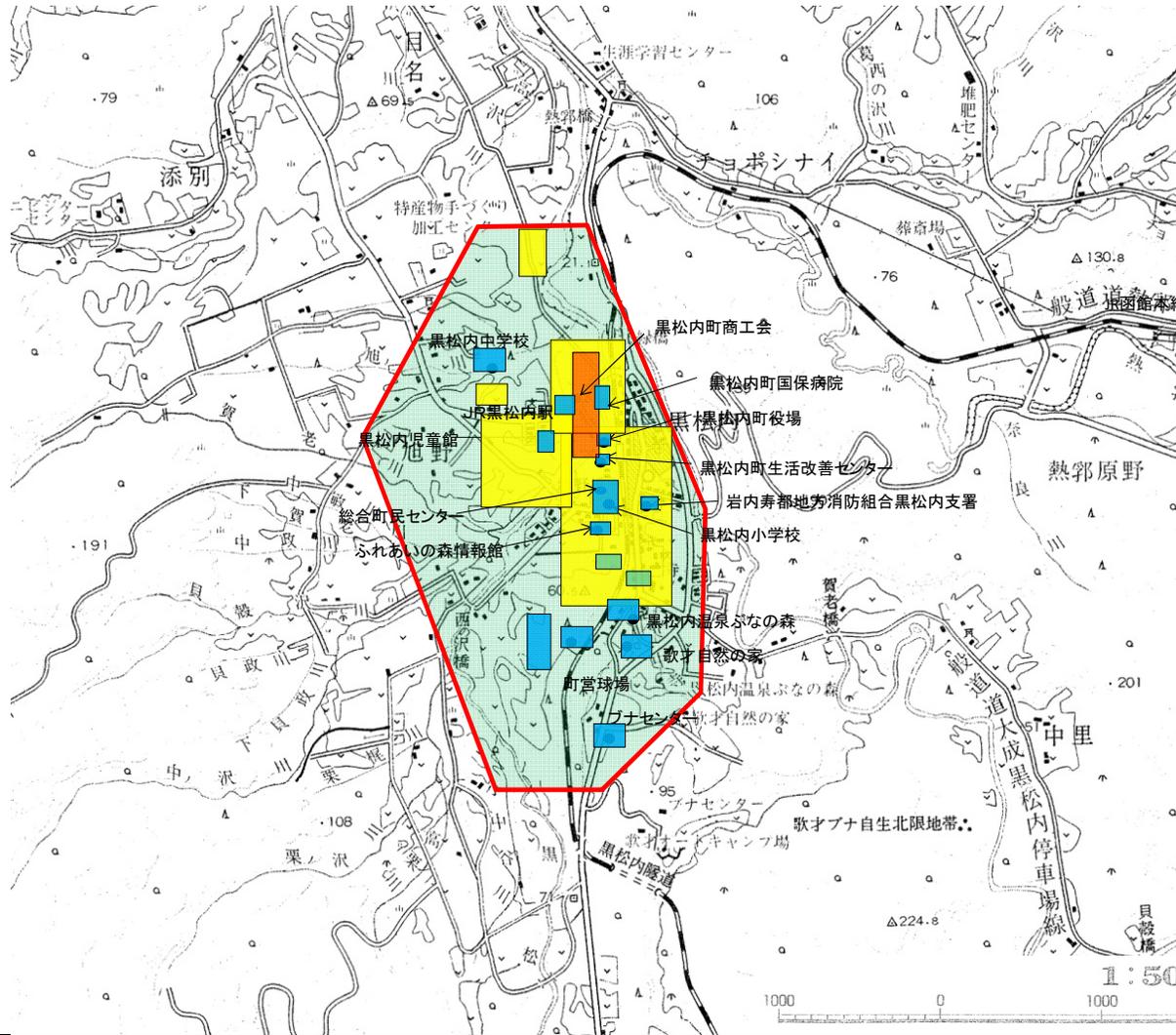


都市再生整備計画の添付書類等

交付対象事業別概要

くろまつないしがいちく ほっかいどうくろまつないちょう
黒松内市街地区（北海道黒松内町）

黒松内市街地区(北海道黒松内町) 現況図



現況土地利用状況 凡例

住居系	
商業系	
主要施設	
農地・緑地	



交付限度額算定表(その1)

黒松内市街地区 (北海道黒松内町)

要綱第5に掲げる式による交付限度額(X)	172.0 百万円	規則第16条第1項に基づく交付限度額(Y)	38,325.0 百万円	X≦Yゆえ、本計画における交付限度額	172.0 百万円
----------------------	-----------	-----------------------	--------------	--------------------	-----------

規則第16条第1項に基づく限度額算定

公共施設の上限整備水準	2,576,000
-------------	-----------

区域面積(m ²)	6,440,000
当該区域の特性に応じて国土交通大臣が定める割合	0.50
区域の面積が10ha未満の地区	0.45
最近の国勢調査の結果による人口集中地区内	0.40
その他の地域	○

単位面積あたりの標準的な用地費	5,350
-----------------	-------

標準地点数	2
公示価格の平均値(円/m ²)	5,350
単位面積あたりの標準的な補償費	
当該区域内の戸数密度(戸/m ²)	
標準補償費(円/戸)	44,000,000

	23,000
--	--------

	0
--	---

まちづくり交付金とは別に国庫補助事業等により整備する施設		
施設名(事業名)	面積(m ²)	国庫補助事業費等(百万円)
合計	0	0

公共施設の現況整備水準	0
-------------	---

整備水準が明らかになっている類似市街地等からの推定	
推定現況整備水準(小数第2位まで)	
推定公共施設面積(m ²)	0

個別公共施設の積み上げ		
	面積(m ²)	割合
道路	-	
公園	-	
広場	-	
緑地	-	
公共施設合計	0	0

Cnを考慮しない場合の交付限度額(Y1)	36514 百万円
----------------------	-----------

	3,622,290,000
下水道	0 円
区域面積(m ²)	6,440,000
うち現況の供用済み区域面積(m ²)	
標準整備費(円/m ²)	3,600

○ 地域交流センター等の公益施設(建築物)	3,622,290,000 円
上限床面積(m ²)	9,400
標準整備費(円/m ²)	385,350

調整池	0 円
調整池の容積(m ³)	
標準整備費(円/m ³)	140,000

河川	0 円
河川整備延長(m)	
標準整備費(円/m)	3,700,000

住宅施設	0 円	
建設予定戸数(戸)	超高層	
	一般	
	合計	0
標準整備費(円/戸)	超高層	一般
	北海道特別地区	41,310,000 33,500,000
	北海道一般地区	38,190,000 30,990,000
	特別地区	49,120,000 35,690,000
	大都市地区	37,170,000 30,180,000
	多雪寒冷地区	41,510,000 32,370,000
	奄美地区	39,520,000 35,640,000
	沖縄地区	30,280,000 30,280,000
	一般地区	33,700,000 28,640,000

市街地再開発事業による施設建築物	0 円
施設建築物の延べ面積(m ²)	
標準共同施設整備費(円/m ²)	132,000

電線共同溝等	0 円
電線共同溝等延長(m)	
標準整備費(円/m)	680,000

人工地盤	0 円
人工地盤の延べ面積(m ²)	
標準整備費(円/m ²)	5,300,000

協議して額を定める大規模構造物等	0 円	
大規模構造物等	協議状況	整備費(円)

Cnを考慮した場合の交付限度額(Y2)	38,325.0 百万円
---------------------	--------------

要綱第5に掲げる式による限度額算定

交付対象事業費	基幹事業(A)	422.6 百万円
	提案事業(B)	7.6 百万円
	合計	430.2 百万円

[1]式	$\alpha 1=4(A+B)/5=$	344.1
[2]式	$\alpha 2=10A/9=$	469.5
	交付限度額(X)	172.0 百万円

- 交付要綱第5 3)式の適用[提案事業2割拡充]
- 平成20年度二次補正予算の執行
- 交付要綱第5 4)式の適用[中活等の45%拡充]
- 4)式の適用の場合、経過措置の適用

交付限度額算定表(その2)

黒松内市街地区 (北海道黒松内町)

交付要綱第5に掲げる式による限度額算定(詳細)

※水色のセルに事業費等必要事項を入力して下さい。(百万円単位)

単位:百万円

○交付対象事業費(必ず入力) (百万円) (百万円)

交付対象事業費	基幹事業合計(A)	422.600	A (事業費)	1)式で求まる額(4/10*(A+B))	172.080	①(国費)
	提案事業合計(B)	7.600	B (事業費)	2)式で求まる額(5/9*A)	234.778	②(国費)
	合計(A+B)	430.200	(事業費)	上記①、②の小さい方	172.080	③(国費)
	提案事業割合(B/(A+B))	0.018		国費率(③÷(A+B))	0.400	④(国費率)

○拡充の有無

以下の3つの拡充のうち、いずれかの拡充がある場合は、該当する欄に○を記入し、事業費等を入力。

・3)式の適用[提案事業2割拡充]		(選択)	⇒	③)式で求まる額(5/8*A)	0.000	⑤(国費)
・平成20年度二次補正予算の執行		(選択)		③)式の適用後(適用がある場合は3式反映)	172.080	⑥(国費)
・4)式の適用[中活等の45%拡充]		(選択)		③)式適用後の国費率(⑥÷(A+B))	0.400	⑦(国費率)

○拡充がある場合の事業費等

平成20年度二次補正の執行がある場合及び4)式の適用がある場合は、以下に事業費等を入力。

平成20年度二次補正の執行がある場合	防災対象事業(A')		A' (事業費)	⇒	③)をA'に置き換えた額(A⇒(A-A')+9/8*A')	172.080	⑧(国費)
	補正予算の執行額		(国費)		執行額を足した額	172.080	⑨(国費)
					補正適用後(上記⑧、⑨の小さい方)	172.080	⑩(国費)
					補正適用後の国費率(⑩÷(A+B))	0.400	⑪(国費率)

4)式の適用を受ける場合	計画の認定等の年度末までの執行事業費(F)		F (事業費)	⇒	適用前の国費率(⑩÷(A+B))	0.400	⑫(国費率)	
	適用対象となる交付対象事業費(A''+B'')	0.000	(事業費)		⇒	適用対象事業費から求まる限度額	0.000	⑬(国費)
	適用対象となる基幹事業合計(A'')		A'' (事業費)			適用後の国費率(⑬÷(A''+B''))	#DIV/0!	⑭(国費率)
	適用対象となる提案事業合計(B'')		B'' (事業費)			4)式適用後の限度額(⑫×F+⑭×H)	#DIV/0!	⑮(国費)
	適用対象事業のうち翌年度以降の執行事業費(H)		H (事業費)					

※4)式の適用を受ける場合で、経過措置を適用しない場合(H21以降新規地区)は、Fの欄を記入せず、A''、B''を記入し、A''=A、B''=B、H=A''+B''=A+Bとなる。

↓
拡充も考慮した交付限度額 172.080 ⑯(国費)

○交付限度額、国費率の算出

交付対象事業費(A+B)	430.2	(事業費)	⇒	交付要綱第5に基づく交付限度額(⑯を1万円の位を切り捨て)	172.0	⑰(国費)
				国費率	0.400	⑱(国費率)

※平成20年補正予算地区及び経過措置適用地区については、各計算用シートで算出された交付限度額と一致していることを確認して下さい。

(参考) 年次計画

黒松内市街地区（北海道黒松内町）

（事業費：百万円）

事業		事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
細項目									
基幹事業									
道路									
公園		—							
古都及び緑地保全事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	地域防災施設	黒松内町コミュニティ防災センター	黒松内町	105.4	7.7	81.4		16.3	
高質空間形成施設	緑化施設等	黒松内市街地区	黒松内町	73.4	50.9	3.5	19.0		
高次都市施設	地域交流センター	黒松内町コミュニティ防災センター	黒松内町	243.8	17.7	188.3		37.8	
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									
住宅街区整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備促進事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型								
	沿道等整備型								
	密集住宅市街地整備型								
	耐震改修促進型								
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									
計				422.6	76.3	273.2	19.0	54.1	0
提案事業									
地域創造 支援事業	優良景観創造事業	黒松内町国民健康保険病院 外	黒松内町	7.6	7.6				
計				7.6	7.6	0	0	0	0
合計				430.2	83.9	273.2	19.0	54	0
累計進捗率（％）					19.5%	83.0%	87.4%	100.0%	100.0%

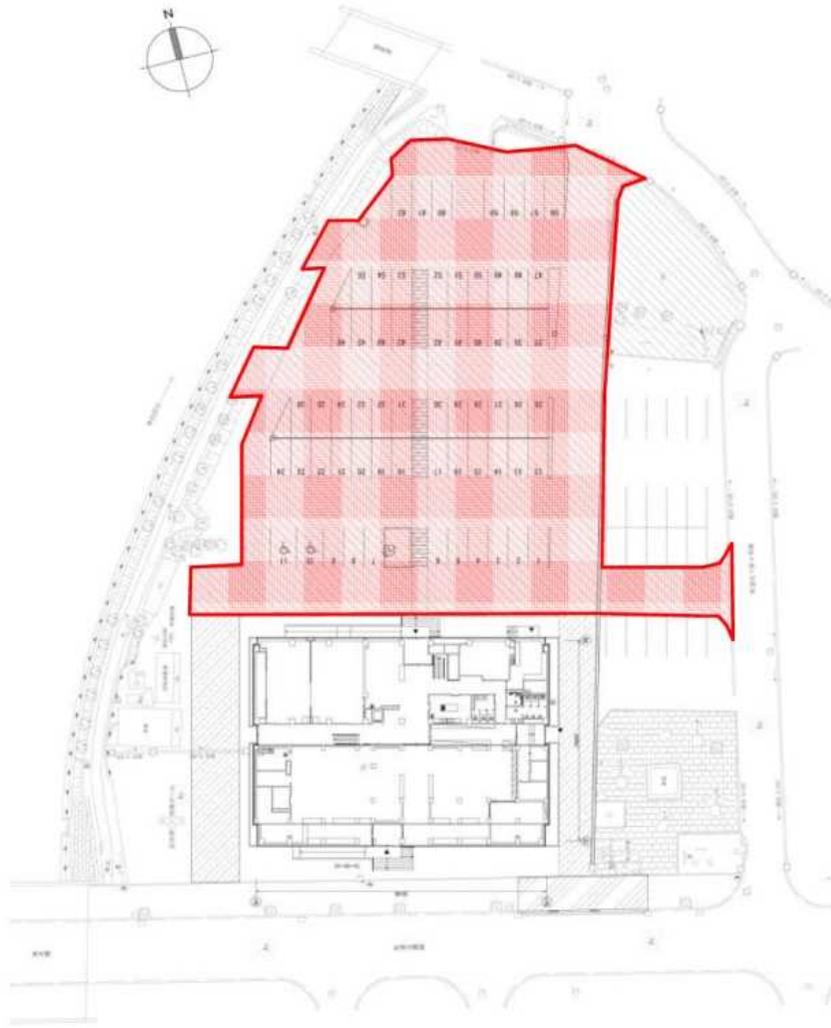
地域生活基盤施設

単位:百万円

交付対象施設	施設名 (路線名等)	事業主体	概要 (面積、幅員、 延長、規模等)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳			備考
					設計費	用地費	施設整備費 うち購入費	
緑地							—	
広場								
駐車場								
自転車駐車場								
荷物共同集配施設								
公開空地								
情報板								
地域防災施設	備蓄倉庫、放送施設、情報通信施設、発電施設、外構整備	黒松内町	建物A=236.04㎡ 外構面積A=739.7㎡	105.4	10.8		94.6	—
合計	—	—	—	105.4	10.8		94.6	

- ・施設名ごとに1行ずつ記入。足りない場合は、適宜行を追加すること。
- ・「事業主体」欄には、事業の施行者を記入。(間接交付の場合は、交付金事業者ではなく、「第三セクター」等の施行者を記入。)
- ・「駐車場」、「自転車駐車場」については、「概要」欄に、形式(立体〇層、タワーパーキング、地下駐輪場等)、面積及び駐車台数を記入。
- ・駐車場については、「備考」欄に駐車場全体の整備に要する費用を記入。
- ・自転車駐車場については、「備考」欄に都市計画決定の有無、自転車駐車施設整備計画における位置づけの有無、自転車駐車場に関する附置義務条例等における位置づけの有無を記入すること。
- ・地域防災施設の「施設名」欄には、耐水性貯水槽、備蓄倉庫、放送施設、情報通信施設、発電施設、排水再利用施設、避難空間等の施設の種別を記入。
- ・共同駐車場については、別の所定のシートに記載すること。

外構整備予定図



黒松内町コミュニティ防災センター面積等一覧

	延床面積	面積比率	外構整備面積
地域生活基盤施設 (地域防災施設)	236.04 m ²	30.18 %	739.7 m ²
高次都市施設 (地域交流センター)	545.97 m ²	69.82 %	1711.3 m ²
計	782.01 m ²	100.0 %	2451.0 m ²

高質空間形成施設

単位:百万円

交付対象施設	施設名	事業主体	概要 (箇所数、規模等)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳			備考
					設計費	用地費	施設整備費	
緑化施設等(植栽・ 緑化施設、せせらぎ・ カスケード、カラー舗 装・石畳、照明施設、 ストリートファニ チャー・モニュメント 等)	照明施設(街路灯)	黒松内町	街路灯LED化:206基	73.4			73.4	
電線類地下埋設施 設								
電柱電線類移設								
地域冷暖房施設						—	—	
歩行支援施設、障害 者誘導施設等								
合計	—	—	—	73.4			73.4	

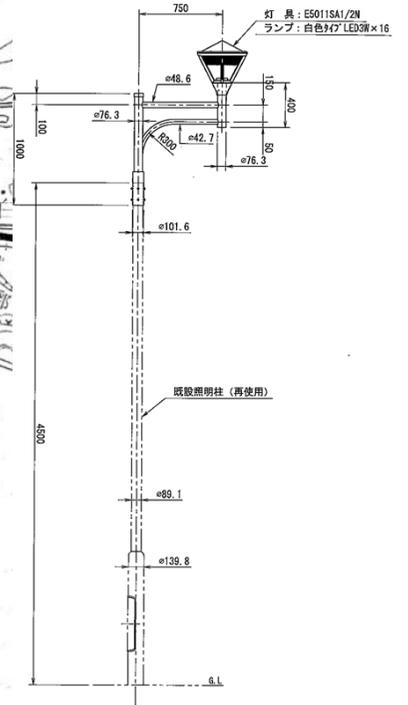
要素事業整備方針概要図 高質空間形成施設(緑化施設等)

整備予定地

現況写真



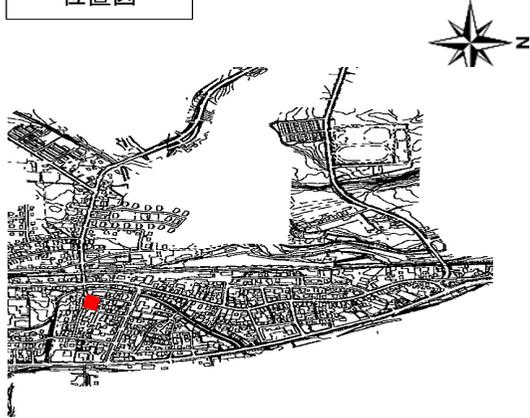
整備予定街路灯



要素事業整備方針概要図

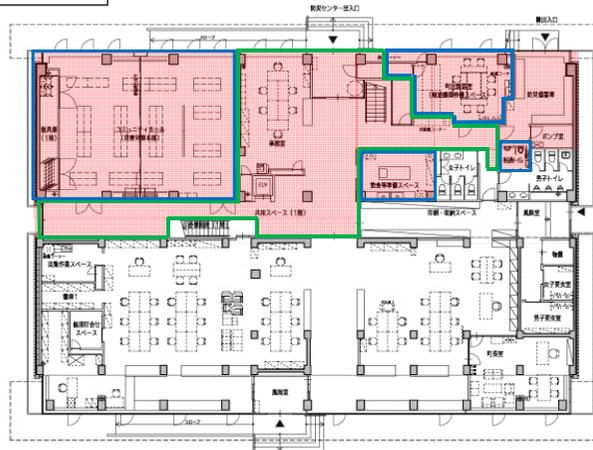
高次都市施設 黒松内町コミュニティ防災センター(地域交流センター)

位置図



平面図

1階



黒松内町コミュニティ防災センター面積等一覧

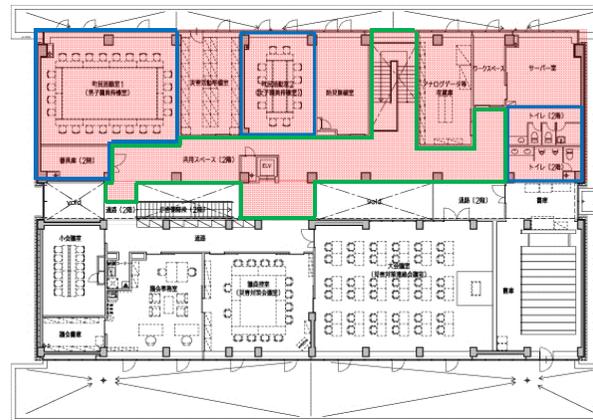
	延床面積	面積比率	共用部面積	総延床面積
地域生活基盤施設 (地域防災施設)	147.14 m ²	30.18 %	88.90 m ²	236.04 m ²
高次都市施設 (地域交流センター)	340.34 m ²	69.82 %	205.63 m ²	545.97 m ²
計	487.48 m ²	100.0 %	294.53 m ²	782.01 m ²

現況写真

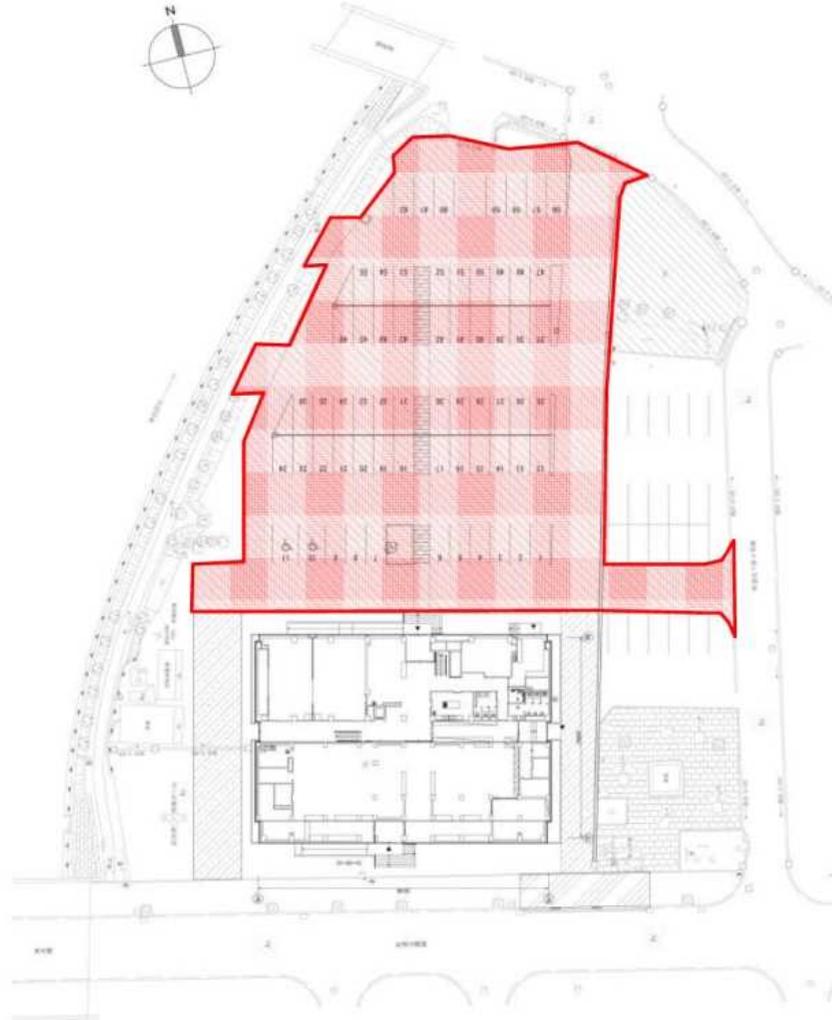
黒松内町役場



2階



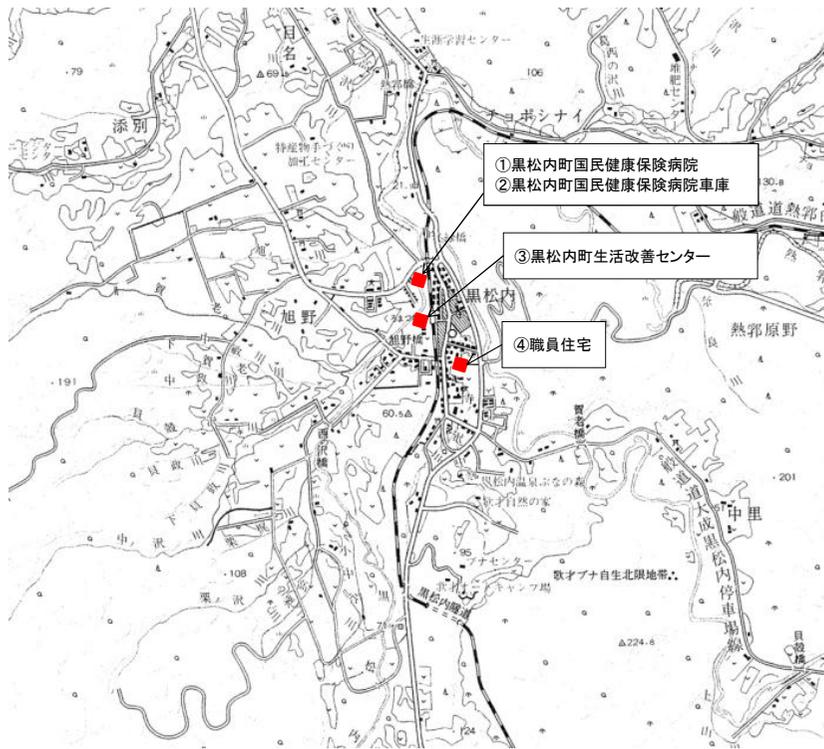
外構整備予定図



黒松内町コミュニティ防災センター面積等一覧

	延床面積	面積比率	外構整備面積
地域生活基盤施設 (地域防災施設)	236.04 m ²	30.18 %	739.7 m ²
高次都市施設 (地域交流センター)	545.97 m ²	69.82 %	1711.3 m ²
計	782.01 m ²	100.0 %	2451.0 m ²

位置図



現況写真

